

西武鉄道と東急電鉄・小田急電鉄

「サステナ車両^(※)」を授受

各社連携して、SDGsへの貢献を加速してまいります

西武鉄道株式会社
東急電鉄株式会社
小田急電鉄株式会社

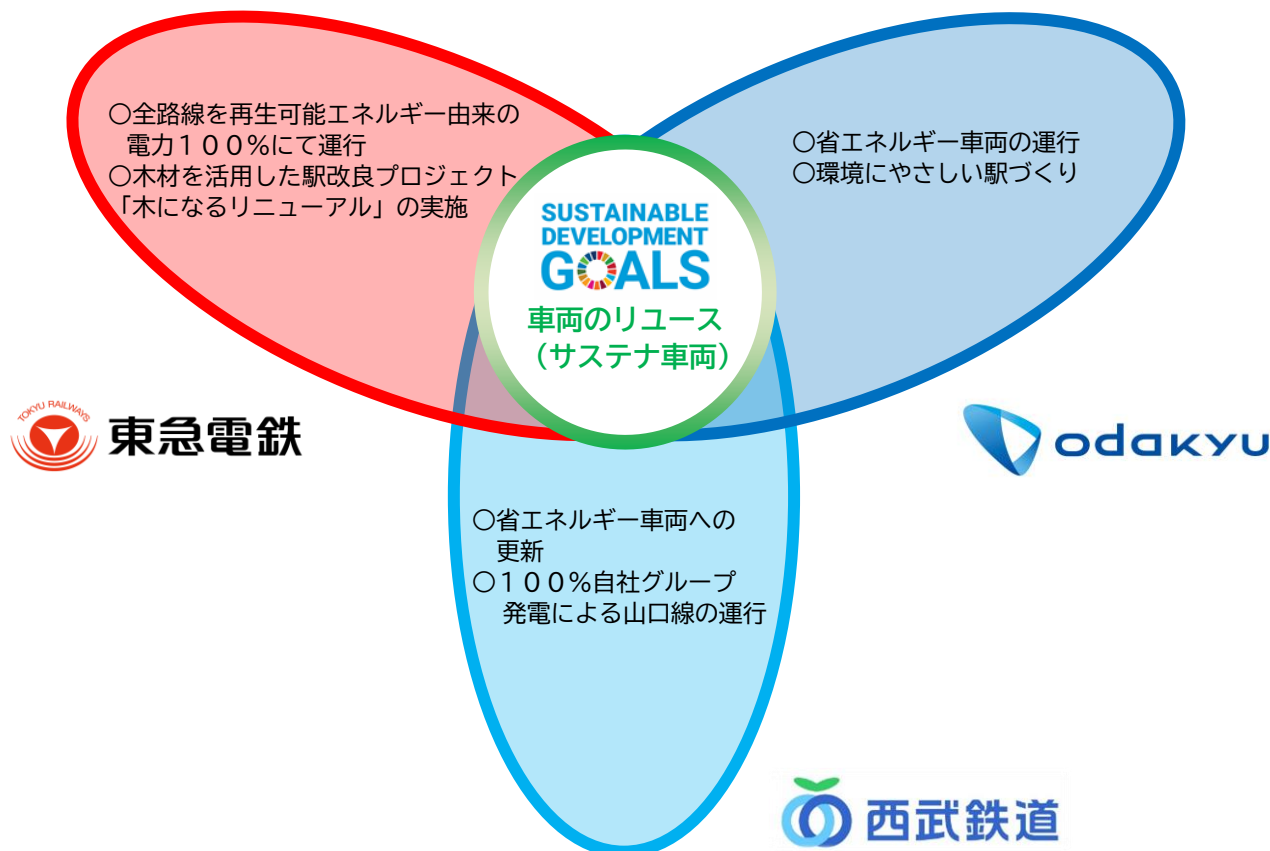
西武鉄道株式会社(本社:埼玉県所沢市、社長:小川 周一郎)は、環境負荷の少ない他社からの譲受車両「サステナ車両」^(※)の授受について、東急電鉄株式会社(本社:東京都渋谷区、社長:福田 誠一)および小田急電鉄株式会社(本社:東京都新宿区、社長:星野 晃司)と連携することに合意いたしましたので、お知らせいたします。

(※)他社から譲受したVVVFインバータ制御車両を西武鉄道独自の呼称として定義

「サステナ車両」として、東急電鉄は「9000系」を、小田急電鉄は「8000形」を、西武鉄道へ譲渡します。これにより、西武鉄道では、本線系(池袋線・新宿線など)への新造車両の導入に加え、「サステナ車両」を支線系(国分寺線や西武秩父線など)に導入することにより省エネルギー化を加速し、**2030年度までに車両のVVVF化100%達成**を目指します。なお、今回の連携による第1編成の運行開始は、2024年度を予定しております。

西武鉄道、東急電鉄、小田急電鉄では、各社の経営理念に基づき、SDGsへの貢献を意識し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを積極的に推進してまいります。

詳細は、別紙のとおりです。



【別紙】

西武鉄道が導入するサステナ車両の概要について

■授受車両

東急電鉄「9000系」



1986年導入。東急では初めて交流モーターを採用し、省エネルギー・省力化を実現。導入後は東横線の主力車両として活躍し、東京メトロ副都心線相互直通を機に大井町線へ転籍。

小田急電鉄「8000形」



1982年導入。竣工より高性能車両として回生ブレーキ機能を搭載したほか、2003年からのリニューアル工事により、VVVF化などの省エネルギー化を推進し、通勤車両の主力として活躍。

■導入時期

2024年度以降、2029年度にかけて順次導入予定

※2024年度に運行開始する第1編成は、小田急電鉄「8000形」

※東急電鉄「9000系」は、2025年度以降、順次運行開始する予定

■導入路線と車両数

車両形式	導入路線	車両数
東急電鉄「9000系」	多摩川線・多摩湖線・西武秩父線・狭山線	約100両
小田急電鉄「8000形」	国分寺線	

■導入効果

①VVVF化100%による使用電力量削減に伴うCO₂排出の削減（2030年度時点での想定）
サステナ車両100両導入 → 年間 約5,700 t（約2,000世帯の年間排出量）のCO₂削減
※旧型車両（直流モーター車）に比べ、使用電力量は約50%削減

②車両のリユースによるCO₂削減

- ・新車製造時に排出するCO₂の削減 約9,400 t（1両あたり 約94 t・100両合計）
- ・車両廃棄時に排出するCO₂の削減 約70 t（1両あたり 約0.7 t・100両合計）

※上記導入時期や車両数は現時点での予定であり、今後の状況により変更になる可能性があります

【西武鉄道株式会社 鉄道本部 車両部長 小川 克弘 コメント】

東急電鉄さま、小田急電鉄さまの多大なるご協力により、資源の廃棄を減らし、自然環境への負荷を軽減する今回の取り組みを実現することができました。これにより当社では、新造車両と「サステナ車両」を組み合わせ、車両の省エネルギー化をスピード感を持って推進します。また、これを機に両社との技術連携を深め、よりサステナブルな輸送サービスをお客さまにご提供します。

【参考】

各社の鉄道事業におけるCO₂削減に向けた取り組みについて

 **西武鉄道**

西武グループでは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを「サステナビリティアクション」として積極的に推進しており、グループ全体でのCO₂排出量を2030年度までに2018年度比で46%削減、再生可能エネルギー導入率を2030年度までに50%とする目標を設定しています。

西武鉄道における主な取り組みは以下のとおりです。

40000系車両の新造と「サステナ車両」の導入

省エネルギー性能が高く、低騒音化した40000系通勤車両を新造し、本線系に導入します。支線系には「サステナ車両」を導入し、車両の省エネルギー化を進めます。

省エネルギー性能の高い走行機器への更新

既存車両も、より省エネルギー性能の高い走行機器へ更新し、運転用電力の削減を進めます。

100%西武グループの太陽光発電で山口線を運行

2021年4月より、山口線（レオライナー）で使用する電気を、西武グループで運営する太陽光発電施設が発電する環境価値が付いた電力で賄うことにより、実質CO₂排出ゼロで運行しています。



 **東急電鉄**

東急(株)グループは2022年3月に、脱炭素・循環型社会の実現に向けた「環境ビジョン2030」を策定するとともに、2030年までにCO₂排出量46.2%削減（基準年度2019年度比）・再エネ比率50%を目指す連結環境目標を掲げています。

東急電鉄における主な取り組みは以下のとおりです。

東急線全路線を再生可能エネルギー由来の電力100%にて運行

2022年4月1日より、東急線全路線での運行にかかる電力を再生可能エネルギー由来の実質CO₂排出ゼロの電力に置き換えています。

木材を活用した駅改良プロジェクト「木になるリニューアル」の実施

積極的な木材活用によりCO₂排出量を削減し、脱炭素化・循環型社会の実現に貢献します。

エコ車両の導入

保有車両はVVVF化100%を達成し、SiC素子を用いた制御装置による主電動機の高効率駆動や、車内全照明と前照灯・尾灯へのLED灯採用により、使用電力を旧型車両と比べ約50%削減した車両の導入を進めています。



 **odakyu**

小田急グループは、美しい地球環境と優しい社会を未来の世代に引き継ぐことを使命とし、事業活動を通じてCO₂排出削減や資源循環、自然資源の保全・活用などの環境課題に積極的に取り組んでいます。

グループ全体で2050年CO₂排出量実質0を目指します。

小田急電鉄における主な取り組みは以下のとおりです。

5000形の新造と3000形リニューアル工事の推進

SiC素子を用いたVVVFインバータ制御装置の搭載や、回生電力量を増大させる新規制御方式の導入、全照明のLED化によるさらなる省エネルギー性能の向上や、騒音、振動の低減等に努めています。

環境にやさしい駅づくり

東北沢～世田谷代田間の地下化3駅は、太陽光発電やトップライト、光ダクト、地中熱ヒートポンプシステム等によって環境負荷を低減しています。地域特性にあった環境にやさしい駅づくりを推進しています。

複々線化事業の効果

計画から約半世紀を経て2019年に完了した複々線化事業は、車内の混雑緩和や所要時間の短縮といった利便性・快適性向上とともに、列車の詰まりの解消により unnecessary 電力使用を抑えています。



◇サステナ車両に関するお問合せ

西武鉄道お客さまセンター TEL. (04)2996-2888

音声ガイダンスのご案内により、メニューをお選びください。

【営業時間： 全日 9 時～17 時（12/30～1/3 を除く）】

以 上